

# 郡市医師会 だより

北見医師会 医政講演会(7月15日開催)

## 医療難民を作らないために 『安全保障としての医療』

北見医師会理事  
北海道医報通信員

小野寺 栄 司

今年4月の診療報酬改定、6月14日の療養病床を23万床削減する内容を含んだ医療制度改革関連法案の国会通過など、われわれ診療側と患者側に大幅な負担と苦痛を強い、そして現在の優れた日本の医療制度を壊してしまうのではないかという危惧さえ抱かせるような改革が進行中であります。

今年4月に選出された古屋聖児北見医師会長は事業方針の中で医療政策に関する講演会の開催を提案しております。今回その第一弾として日本の医療制度について、メディカル朝日の『Dr. 鈴木 の辛口トーク』執筆で知られる川崎市立川崎病院内科の鈴木厚先生に講師としてはるばる川崎からお越しいただき、7月15日医政講演会を開催いたしました。

本講演会は北見歯科医師会、北見薬剤師会にも後援をいただき、医療・福祉関係者ばかりでなく、一般市民約40名を含む約120名の参加のもとで行われました。この中で鈴木先生は4月の診療報酬改定を、病院つぶし、老人つぶし、地方つぶし・見殺し、医療難民促進法案、医療従事者過労死促進法案と断罪しておりました。氏はそもそも医療はサービス業ではなく、国民の生命と健康を守る安全保障であり、社会基盤（インフラストラクチャー）であることを力説しておりました。そして現在の日本の医療が安い費用で良質の医療を提供していることを、具体的なデータをもとに示していただきました。そしてこの結果が医

師、看護師ら医療従事者の大変な努力のもとに成り立っていることを誰も言わないので、大多数の国民は医師そして医師会を『欲張り村の村長』と見ていると指摘しております。その上で安全保障であるからには経済と連動して論議するべきものではありませんが、政府は恣意的に誤った予測値を用い、不安を煽ることで医療費抑制政策を推進しております。その結果は4月の医療のコストの引き下げ、6月の医療制度改革関連法案の成立となり、このままでは医療従事者のやる気をそぎ・医療の荒廃を招き、ひいては医療・介護難民の発生など、国民に大きな不利益をもたらす危険性を指摘しておりました。これらの政策に対してマスコミは事の本質を見抜いておらず、また営利を追求する企業として一部分では行政の手先のような役割を果たしていると看破しておりました。また政治家も不勉強で現場の医療状況を知らずして財政のことばかりに気を取られており、官僚の言いなりとなり制度改悪を推進しているとしか言いようがない。これらマスコミ・政治家・厚労省の情報を鵜呑みにした大多数の国民は、健康に関心が高く、医師や最新の医療に過度の期待を持っている反面、日本の医療は値段が高く、世界的には高いレベルの医療とは思わないという誤解を持っており、国土の防衛と同じように医療の安全保障に危機が差し迫っているとは感じていないのが現状であると指摘しておりました。

このような状況の中、医師は単に患者を治すだけではなく、間違った政策・社会の在り方を治す必要があります。その為には医療関係者が危機感を持ち、団結し、行動することであると結んでおりました。

